

岩代 一宏 議員



南阿蘇村の産業の振興、特に農林業の振興及び活性化策は

Q 現在石油価格が異常なまでに高騰し、我が村においても燃料となる石油は勿論のこと、肥料、農薬、家畜の飼料等々値上の嵐となっており、農家の悲鳴が聞こえて来る。この様な中、合併後の振興策の取組みとその評価をどう総括されているのか。

A **村長** 連日の報道等のおおりに、原油卸売り価格は、世界的に混乱を招いている。

本村農業の主要な作物のうち、乾燥行程が欠かせない水稲1、275haはもちろんのこと、トマト

32ha、イチゴ10ha、この2つの作物だけで、出荷額ベースで言うると野菜の74%を占めるが、この2つとも、暖房用燃油が必要である。

産業用重油の価格上昇は昨年同月に比べ5割以上も高騰しており、死活問題であると痛感している。生産者団体、農協、さらには農産物を運ぶ運輸業界などでも次々に政府の援助やより強い関与を求めて決起大会開催など、近年に無い状況下にあるため、村としても何かとれる対策が無いのか、考えあぐねている。

この状況が長期化するようであれば、代替燃料の使用ももちろん視野に入れて早急な検討が必要であると判断する。

今後とも政府の対応や国際的な動きを注視しながら、取れるべき対策については即断していく。次に高齢者にも取り組める作物の導入、また、特産品づくりやブランド化への取り組みにつきましましては、担当課の産業振興課長から具体的な取り組みについてお答え申し上げます。

Q 各施策を的確に評価するには、農業センサスの調査を待つだけではなく村として毎年度の動態調査が必要と考えるがその点はどうか。

A **村長** 価格が安定しているか、販売はどうかなど、やはり実態が知りたいので、私は調査したいと思っています。

Q 次に前回高齢者も取組める作物の導入、特産品づくりやブランド化に取組むと答弁されているが具体的な考えは。

A **村長** 具体策4点を申し上げたい。①雑穀の作付けを荒廃地に推進する。②花のきれいな果樹等を作付けし、果樹は観光農園または加工品として販売。③レンゲ草を植え付け、国産のハチミツをつくる。④大学の共同研究した焼酎の原料となるイモの作付け拡大。

村では、県の専門機関への相談、栽培農家や大学の実習等を視察研修し、比較的投资額が少なくて高齢者や女性にも取り組み易い作物栽培の推進を図っていく。

Q 大学との交流事業では、今2つの部会を立上げ具体的な特産品づくりに着手している。ある程度形が整えば予算の確保ができるのか、今一度遊休地等の利活用も含め考えを問う。

A **村長** 将来、産業になるとか、村のために、農

家のためになるならば、当然村がお手伝いするということは大事なことであると思っています。

※ これからの農業で生き抜くには村長も答弁された様に付加価値を付け自ら売る姿勢が求められる。

「日本一の村づくり」、言うは易しである。これを成し遂げるのはたゆまぬ探究心と努力しかない。尚一層のご努力を強く願いたい。

東海大学試験木場
木いちご栽培の様子



県果樹試験場にて